

平成18年度 校内共同研究計画

1. 研究テーマ

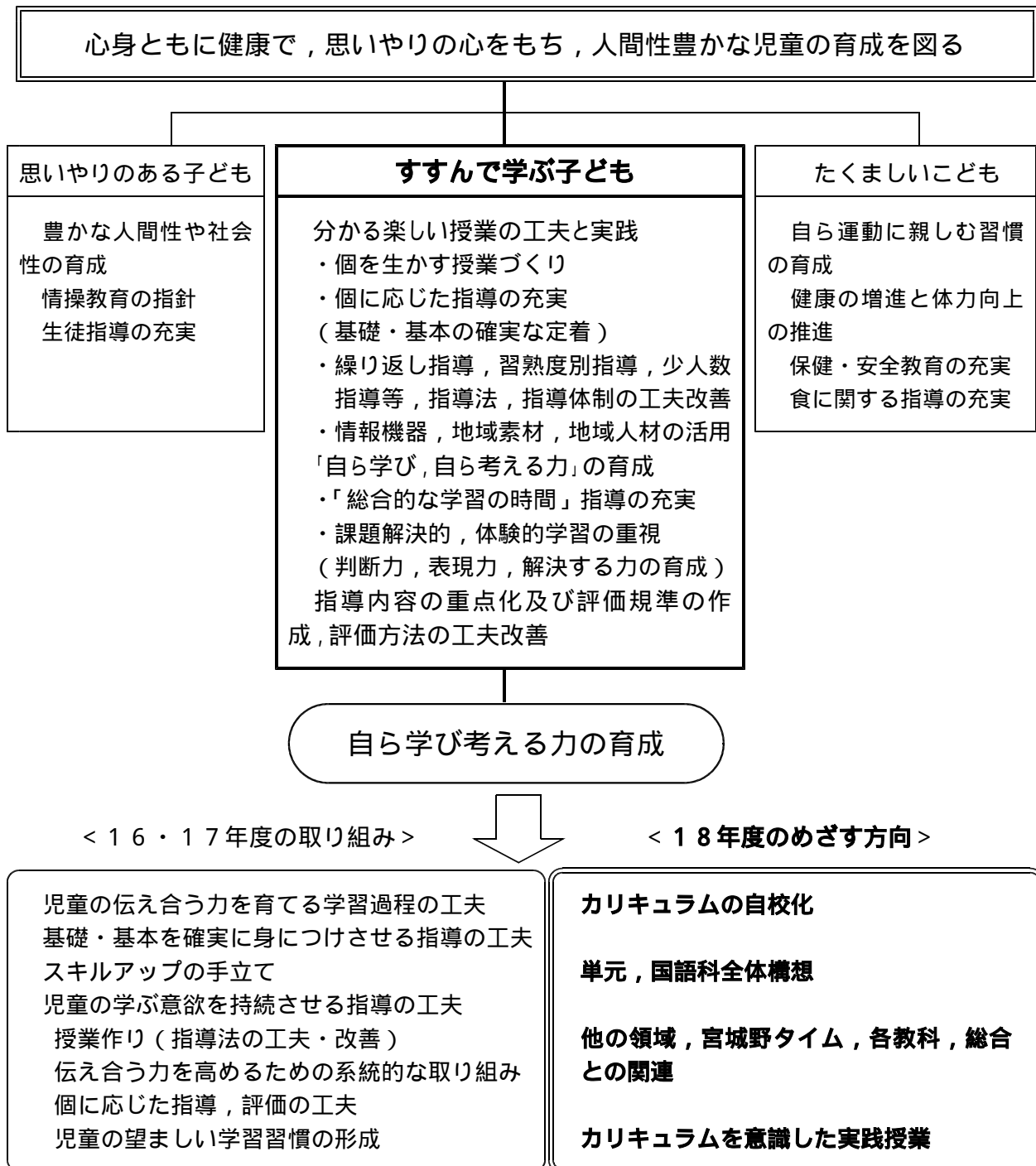
すすんで学び 豊かな表現で伝え合う児童の育成

～ 国語科における「話すこと・聞くこと」の指導の工夫を通して～

2. 主題設定の理由

(1) 本校の教育目標から

(学校教育目標)



(2) 学習指導要領改善の基本方針，及び国語科のねらいから

教育課程審議会の答申における国語科改善の基本方針として、「国語に関する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、豊かな言語感覚を養い、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成する」に重点がおかれている。

こうしたことは、これまで文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであった指導の在り方を改め、自分の考えを持ち、論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現する能力、目的に応じて的確に読みとる能力や読書に親しむ態度を育てることを重視しており、国語科指導の質的な変換が求められている。

その結果、国語科の教科目標としては、これまで培われてきた国語の表現力と理解力の育成に加え、互いの立場や考えを尊重する尊重しながら言葉で伝え合う能力の育成を重視して、新たに「伝え合う力を高める」ことを目標に位置づけている。

一方、国語の能力や国語に対する関心・態度は、国語科だけではなく、他教科、道徳及び特別活動、総合的な学習の時間などの学習、さらには学校教育活動全体、家庭や地域での生活の中で身につくことも多い。そうした意味においては、国語科の学習の中だけでなく、それ以外のあらゆる機会を視野に入れて、それらとの関連にも配慮した指導計画、学習内容、学習方法を工夫することが大切である。同時に国語力の育成が児童の全ての学習や日常生活の基礎となっており、国語科教育の重要性が大きいと考える。

(3) 児童の実態

平成16年4月、研究に先立ち児童の実態を把握するため、子どもたちの学校生活や教科指導の中で見られる言語環境や国語の実態、子どもたちに育てていきたい力等、普段教師が感じることをお互いに出し合い、KJ法で分類、学校全体としての傾向や指導の重点項目の洗い出しを行った。内容及び指導の方向性は以下の通りである。

<国語に関する全体的傾向>

ー全体的傾向（プラス面）ー

- ・音読が好きで、みんなの前で読みたがる。
- ・作文や日記を書くのが好き。自分の思いを素直に表すことができる。
- ・自分の意見を発表するのが好き、教師に聞いて欲しくて手を挙げる子が多い。
- ・漢字練習を好む。（テストでは実力差があるが、練習自体は好んで頑張る。）
- ・読書を好む。時間を見つけては本を読んでいる。

ー全体的傾向（課題となっている面）ー

- ・友達との気軽な会話だと話せるが、改まってみんなの前で発表だと声が小さくなりがち。
- ・相手に分かるように話すことがうまくできず、単語だけで用を済ませてしまうことが多い。
- ・単語でしか話せない子、何も言わず黙って持ってきたものを差し出す子が多い。
- ・自分の意見の発表の結び（以上です。終わります）等、きちんと言えない。
- ・字を丁寧に正しく書く子は少ない。行を考えず自分流の子が多い。
- ・自分の思いを言葉で表現するのが苦手な子が多い。
- ・友達の話や先生の話を中心して聞くことが苦手。すぐ自分のことを言いたくて口をはさむ。
- ・話をしっかり聞こうという意識が持続しない。
- ・前に出てから、話し出すまで時間がかかる子が多い。
- ・場に応じた声の大きさを話せない。（自分の声の大きさが分かっていない）
- ・大きな声ではきはきと発表できる子は少ない。

－特支児童の実態－

- ・「人前に立つ」となると気持ちが固くなってしまい、やる気が戻るまでやや時間がかかる。
- ・話す気持ちになれば、たくさん話せるが、発音が不明瞭な音や早口になりやすいため、うまく聞き取ってもらえず、結果意欲をなくしてしまうことがある。
- ・共感的に話を聞いたり、指示や指導を極力控えたとき、生き生きと良く伝わる話し方をする。

－個人差にかかわる課題－

- ・進んで発言・発表をする子と、ほとんど話せない子など、個人差が大きい。
- ・集中して話を聞けることそうでない子の差が大きい。

めざす子どもの姿

- ・自分の言葉で話せる。
- ・根拠を明確にしながら説明や話ができる。
- ・言葉づかい・声の大きさ・話す態度など、場に応じた話し方ができる。
- ・内容を工夫して話したり、集中して話を聞いたりしたりできる。
- ・自分の思いや考え等を進んで発表できる。

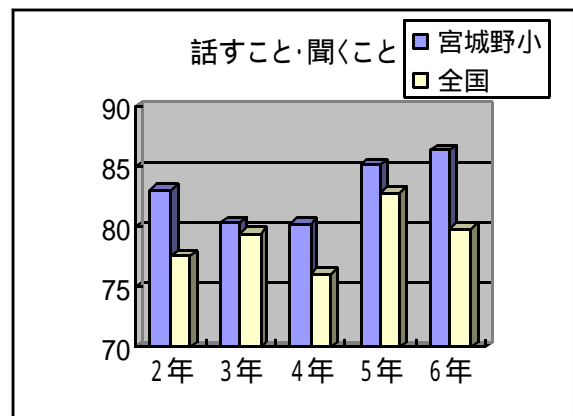
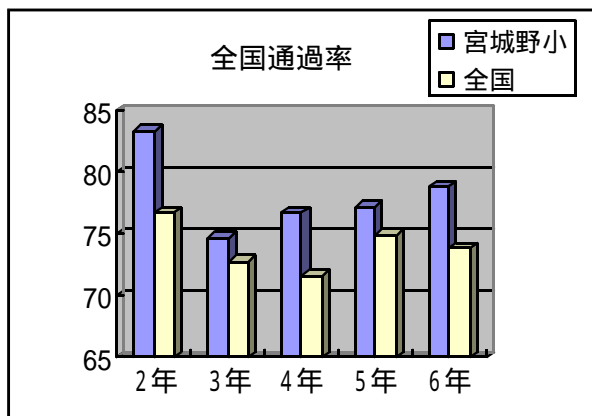
指導の重点

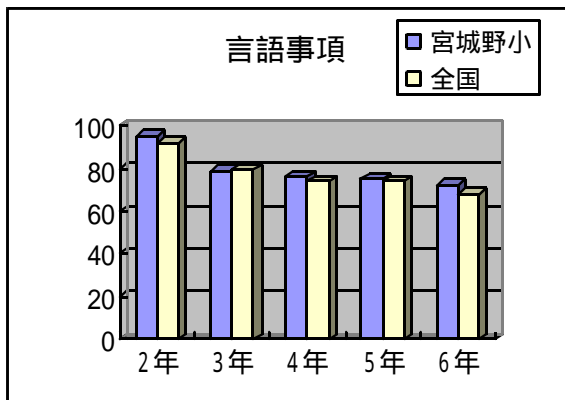
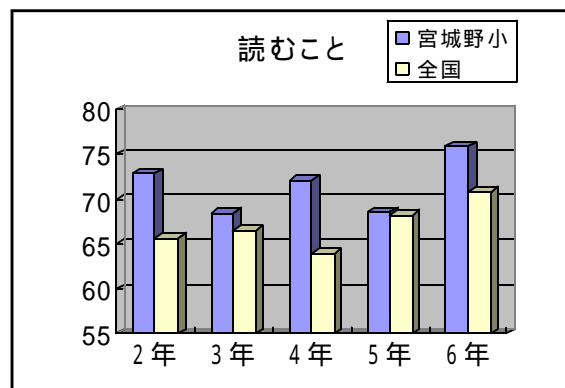
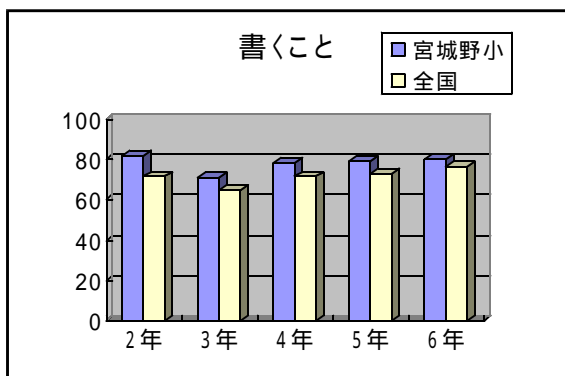
- ・場に応じて、適切に話ができるようにする。(声の大きさ、言葉づかい、話す態度)
- ・相手に分かりやすく話す(話の結びまできちんと話す)
- ・論理的に説明する力を伸ばす。(意味づけ、理由づけ)
- ・進んで表現しようとする意欲を高める。
- ・話を聞く態度の育成
- ・個に応じた指導の充実

< CRT 検査の結果から >

平成17年6月に2年生以上で実施した CRT 検査では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項の」4領域において、どの学年も全国通過率を上回る結果が出た。(下グラフ参照)

しかし一方、年度末の運営反省会では、各種集会における子供たちの話の聞き方や日常のあいさつ、子供たち同士の言葉づかいなど、実践的な態度ではまだ十分とはいえない面がある、との反省が教師側から出された。





3. これまでの経過と18年度研究の視点

本テーマにおける研究は今年で3年目となる。一昨年は「伝え合う力を育てる学習過程の工夫」を、2年目の昨年は、指導法の工夫・改善として「授業作り」を中心とした実践研究を行い、教育センターの学習指導訪問も受けた。

3年目となる今年は「カリキュラムの自校化」に向けた取り組みを進めたいと考えている。

17年度の教科書改訂に伴い内容が大きく見直され、国語科においては他教科及び総合等と関連させた学習展開が求められている。

そこで、18年度はこうした他教科や総合、宮城野タイムなど様々な学習活動との関連を図りながらトータル的に児童のコミュニケーション能力を育成する本校独自のカリキュラム作りを進めていきたいと考えている。

年度	研究内容（主な重点内容）
16年度	児童の伝え合う力を育てる学習過程の工夫 ・表現力を高める多様な学習活動 （他の領域、各教科・総合・特活、宮城野タイム） ・児童の同士の学び合い 基礎・基本を確実に身につけさせる指導の工夫 スキルアップの手立て 児童の学ぶ意欲を持続させる指導の工夫
17年度	授業作り（指導法の工夫・改善） 伝え合う力を高めるための系統的な取り組み ・発達段階に応じた内容の検討，系統化 個に応じた指導 一人一人を生かす評価の工夫 児童の望ましい学習習慣の形成

18年度	カリキュラムの自校化 他の領域、宮城野タイム、各教科、総合との関連 カリキュラムを意識した実践授業
------	---

4. テーマのおさえ

「豊かな表現で伝え合う」とは

児童一人一人が、課題・疑問・思いなどに対して、知識や技能を生かしながら、主体的に他者に伝えようとする様子を「豊かな表現」と捉える。

具体的には、学習過程や発達段階に応じて、以下のような状態に達している時に、「豊かな表現で伝え合っている」と捉える。

関心・意欲・態度が高められ、自ら進んでコミュニケーションを図ろうとしている状態

自分の思いや考えを適切な表現で伝えようとしている状態

思考・判断しながら相手に効果的に伝えようとしている状態

他者とのかかわりの中で、自分の思いや考えを深めながら伝え合う状態

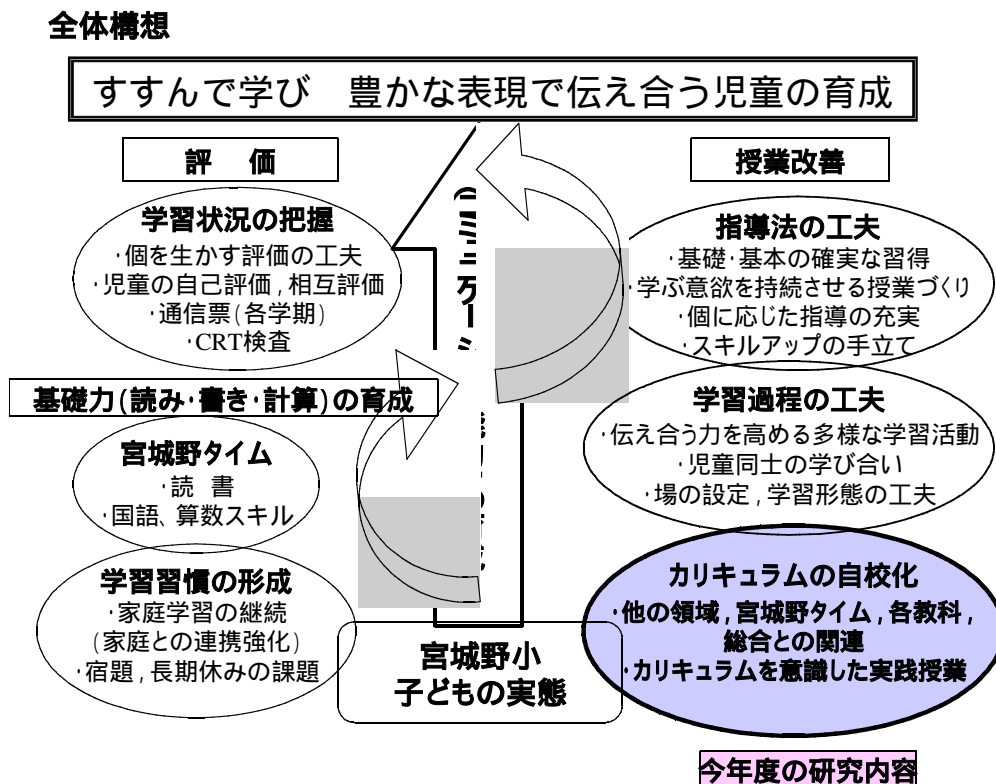
5. 研究目標

国語科の「話すこと・聞くこと」の領域において、児童の伝え合う力(コミュニケーション能力)の育成を実践を通して明らかにする。

6. 研究仮説

「話すこと・聞くこと」の指導の工夫を通して、伝え合う力を高めれば、児童は進んで他者とかわり、コミュニケーションを図ろうとするであろう。

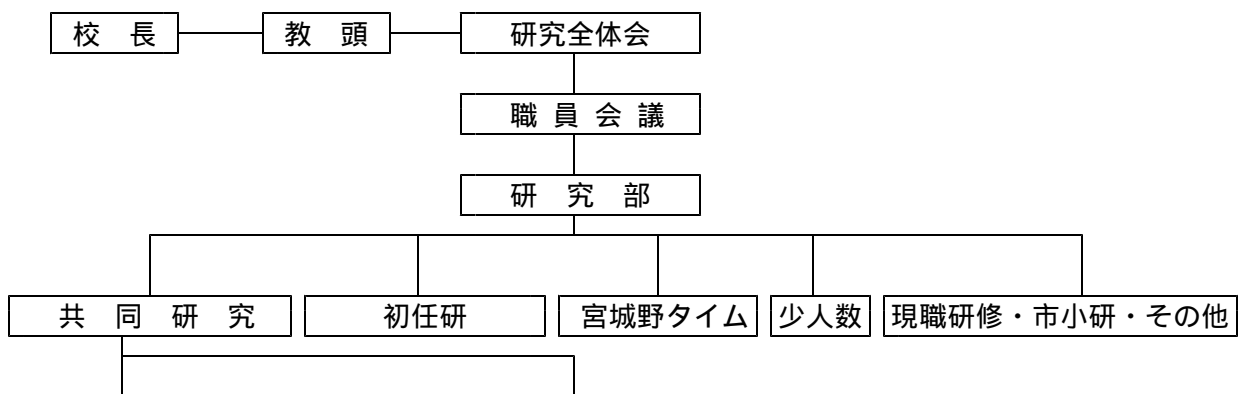
7. 研究全体構想図



8. 研究の方法

- ・国語科のねらいを踏まえ，研究の実践は各学年部とする。
- ・国語部ならびに国語主任と連携を図りながら研究を推進する。
- ・研修日を設定し，研修内容の充実と実践のための時間を確保する。
- ・研究計画に基づいて各種調査や理論研究を行い，授業研究ならびに事後検討会を通してその成果を公開する。
- ・実態調査や授業実践を通して児童の実態や変容を把握し，指導の改善に努める。
- ・年2回研究全体会を開催し，研究推進に関する共通理解，研究成果の確認，次年度の方向性等を検討する場とする。
- ・先進校の視察，外部講師を招聘しての学習会等を企画し研修を深める。
- ・研究推進員が中心となって共同研究全般の計画立案，実施，運営，研究授業のサポート，紀要の編集等を行う。

9. 研究組織



[研究推進委員会]

研究主任：片柳
国語主任：八巻
1年：安達
2年：八巻
3年：高橋純
4年：佐藤保
5年：澤田
6年：針生
特支：大月

[学年部]

低学年部		中学年部	
安達	八巻	佐々木千	渡邊
宮崎	桑田	高橋純	佐藤保
伊東	紺野	佐藤範	赤木
柳沼	齋藤	大月	佐藤憲
太斎			
高学年部			
石山	木村		
高橋玲	須崎		
能勢			
澤田	針生		
片柳	佐藤祐		

10. 授業研究について

授業計画

- * 全職員で授業を参観することを基本とするが，実態に応じて全体提案，学年部提案に分けて研究授業を行う。（実践授業について年度当初に決定する）
- * 参観した授業については，可能な限り事後検討会に参加する。
- * 指導案検討会をオープンにし，できるだけ多くの教師が参加できる体制をとる。

指導案

- ・先進校の資料を基に推進委員会で検討し，提案する。
- ・授業研究実施の数日前には指導案を配布し，熟読してもらうようにする。

授業記録

- ・学年部で検討の上，必要に応じて授業記録をとり，資料として残す。
- ・ビデオ，記録写真等の撮影を必要に応じて行う。また，学年部内での人員が不足する場合には，他学年の推進委員に依頼する。

授業検討会

- ・各学年部は研究授業の事後検討会を主催する。司会，記録等の役割は全職員で分担する。

記録の保存

- ・指導案，授業記録，事後検討会の記録等は，研究主任に各1部を保存用として提出する。
- ・各種資料は，研究紀要作成の際に必要なため，各学年部で保存しておく。
- ・今年度は，印刷物とデジタルデータ（フロッピー等）の両方で提出してもらう。

1 1 . 研究計画

月	内 容	行 事 等
4	・学年会・研究推進委員会 ・学年部研究計画立案	・入学式 4/10 ・遠足 4/21 ・授業参観 4/29
5	・研究推進委員会 ・研究全体会（今年度方向確認）	・運動会 5/27
6	・研究推進委員会 （話す・聞くのカリキュラムの形式の確認） カリキュラム作り	・CRT 検査 6/1 ・修学旅行 6/8 ~ ・授業参観 6/23
7	・研究推進委員会	・野外活動 7/3 ~ 5 ・家庭訪問 7/21~
8	・研究推進委員会	
9	・研究推進委員会	・教育家庭訪問 9/8 ・半日自由参観 9/13 ・陸上記録会 9/26
10	・研究推進委員会	・50周年記念式展 ・学習発表会 10/28
11	・研究推進委員会 ・中学年部実践授業 3年 ・低学年部実践授業 1年2組	・持久走大会 11/10 ・若菘まつり 11/17
12	・研究推進委員会	・個人面談 12/4~
1	・研究推進委員会 ・研究のまとめ ・研究全体会（今年度のまとめ 報告会）	・書き初め展 ・市図工展
2	・研究推進委員会 ・研究全体会（次年度の方向性について）	・スケート教室 2/2 ・スキー教室 2/9
3	・研究推進委員会 ・研究集録完成	・授業参観 ・卒業式 3/20 ・修了式 3/23